

## 5 分数のかけ算 ①

### 答え

- 1 ①  $\frac{27}{4}$  ( $=6\frac{3}{4}$ ) ②  $\frac{4}{21}$   
 ③  $\frac{1}{10}$  ④  $\frac{20}{3}$  ( $=6\frac{2}{3}$ )  
 ⑤  $\frac{9}{7}$  ( $=1\frac{2}{7}$ ) ⑥  $\frac{56}{5}$  ( $=11\frac{1}{5}$ )
- 2 ①  $>$  ②  $<$  ③  $>$  ④  $<$
- 3 ① 192 円 ②  $\frac{35}{4}$  ( $=8\frac{3}{4}$ ) kg

### 考え方

- 1 ① (分数) × (整数) の計算では、分母はそのままにして分子に整数をかけます。

$$\frac{3}{4} \times 9 = \frac{3 \times 9}{4} = \frac{27}{4}$$

- 2, ③ (分数) × (分数) の計算では、分母どうし、分子どうしをそれぞれかけます。

$$\frac{4}{9} \times \frac{3}{7} = \frac{4 \times \cancel{3}}{\cancel{9} \times 7} = \frac{4}{21}$$

$$\frac{3}{8} \times \frac{4}{15} = \frac{\cancel{3} \times \cancel{4}}{\cancel{8} \times \cancel{15}} = \frac{1}{10}$$

- 4 12 を  $\frac{12}{1}$  になおして計算します。

$$12 \times \frac{5}{9} = \frac{12}{1} \times \frac{5}{9} = \frac{\cancel{12} \times 5}{1 \times \cancel{9}} = \frac{20}{3}$$

- 5, ⑥ 帯分数の混じった計算では、帯分数を仮分数になおして計算します。

$$\frac{3}{4} \times 1\frac{5}{7} = \frac{3}{4} \times \frac{12}{7} = \frac{3 \times \cancel{12}}{\cancel{4} \times 7} = \frac{9}{7}$$

$$2\frac{2}{3} \times 4\frac{1}{5} = \frac{8}{3} \times \frac{21}{5} = \frac{8 \times \cancel{21}}{\cancel{3} \times 5} = \frac{56}{5}$$

- 2 積とかけられる数の大きさの関係は、次のようになります。

・かける数が1より大きいとき

→積は、かけられる数より大きくなる。

・かける数が1のとき

→積は、かけられる数と等しい。

・かける数が1より小さいとき

→積は、かけられる数より小さくなる。

この関係に注目して、積とかけられる数の大小を調べましょう。

- ①  $1.09 > 1$  だから、

$$\frac{7}{8} \times 1.09 > \frac{7}{8}$$

- ②  $\frac{6}{7} < 1$  だから、 $\frac{7}{8} \times \frac{6}{7} < \frac{7}{8}$

- ③  $1\frac{1}{6} > 1$  だから、 $\frac{7}{8} \times 1\frac{1}{6} > \frac{7}{8}$

- ④  $\frac{7}{8} < 1$  だから、 $\frac{7}{8} \times \frac{7}{8} < \frac{7}{8}$

- 3 ① リボンの代金は、

1mあたりの<sup>ねだん</sup>値段×長さ

で求められます。

$$120 \times 1\frac{3}{5} = \frac{120}{1} \times \frac{8}{5}$$

$$= \frac{\cancel{120} \times 8}{1 \times \cancel{5}} = 192 \text{ (円)}$$

- ② この鉄の棒の重さは、

1mあたりの重さ×長さ

で求められます。

$$3\frac{3}{4} \times 2\frac{1}{3} = \frac{15}{4} \times \frac{7}{3}$$

$$= \frac{\cancel{15} \times 7}{4 \times \cancel{3}} = \frac{35}{4} \text{ (kg)}$$

## 14 角柱と円柱の体積 ①

### 答え

- 1 ①  $105\text{cm}^3$                       ②  $240\text{m}^3$   
      ③  $11.2\text{cm}^3$                     ④  $850.5\text{cm}^3$   
 2 ①  $254.34\text{cm}^3$                 ②  $6280\text{cm}^3$   
 3  $2640\text{cm}^3$

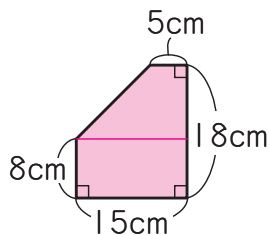
### 考え方

- 1 角柱の体積は、**底面積×高さ**で求めることができます。
- ① 底面積が、 $3 \times 5 = 15$  ( $\text{cm}^2$ ) だから、求める体積は、  
 $15 \times 7 = 105$  ( $\text{cm}^3$ )
- ② 底面積が、  
 $5 \times 12 \div 2 = 30$  ( $\text{m}^2$ )  
 だから、求める体積は、  
 $30 \times 8 = 240$  ( $\text{m}^3$ )
- ③ 底面は、上底 3cm、下底 2cm、高さ 1.6cm の台形なので、底面積は、  
 $(3 + 2) \times 1.6 \div 2 = 4$  ( $\text{cm}^2$ )  
 したがって、求める体積は、  
 $4 \times 2.8 = 11.2$  ( $\text{cm}^3$ )
- ④ 底面は 2 本の対角線の長さが 6cm、13.5cm のひし形なので、底面積は、  
 $6 \times 13.5 \div 2 = 40.5$  ( $\text{cm}^2$ )  
 したがって、求める体積は、  
 $40.5 \times 21 = 850.5$  ( $\text{cm}^3$ )
- 2 円柱の体積は、角柱の体積と同じように、**底面積×高さ**で求めることができます。
- ① 底面の円の半径は、  
 $6 \div 2 = 3$  (cm)  
 だから、面積は、  
 $3 \times 3 \times 3.14 = 28.26$  ( $\text{cm}^2$ )  
 したがって、求める体積は、  
 $28.26 \times 9 = 254.34$  ( $\text{cm}^3$ )

- ② 底面は半径 10cm の円の半分なので、その面積は、  
 $10 \times 10 \times 3.14 \div 2 = 157$  ( $\text{cm}^2$ )  
 したがって、求める体積は、  
 $157 \times 40 = 6280$  ( $\text{cm}^3$ )

- 3 底面が五角形、高さが 12cm の五角柱とみることがができます。

右のように、底面を台形と長方形に分けて考えます。台形の面積は、



$$(5 + 15) \times (18 - 8) \div 2 = 100$$
 ( $\text{cm}^2$ )

長方形の面積は、

$$8 \times 15 = 120$$
 ( $\text{cm}^2$ )

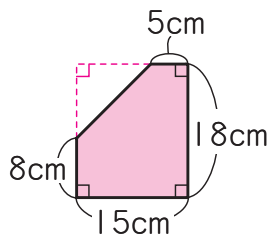
だから、底面積は、

$$100 + 120 = 220$$
 ( $\text{cm}^2$ )

したがって、この五角柱の体積は、  
 $220 \times 12 = 2640$  ( $\text{cm}^3$ )

(別解)

右の図のように、長方形の面積から三角形の面積をひいて、底面積を求めることもできます。長方形の面積は、



$$18 \times 15 = 270$$
 ( $\text{cm}^2$ )

三角形の面積は、

$$(15 - 5) \times (18 - 8) \div 2 = 50$$
 ( $\text{cm}^2$ )

だから、底面積は、

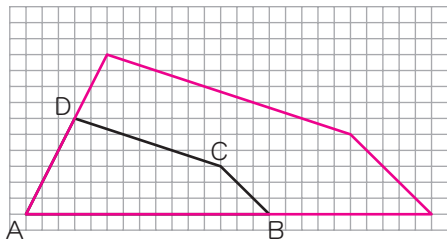
$$270 - 50 = 220$$
 ( $\text{cm}^2$ )

## 18 図形の拡大と縮小

### 答え

1 ① ⊕,  $\frac{3}{2}$       ② ⊕,  $\frac{1}{2}$

2

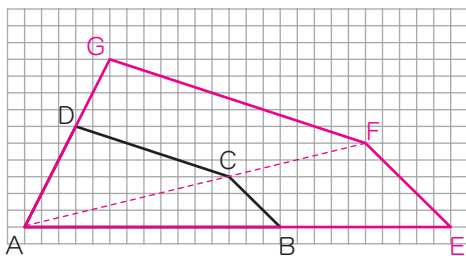


3 ①  $92^\circ$       ②  $\frac{28}{5}$  ( $=5\frac{3}{5}$ ) cm

### 考え方

1 ①, ② ⊕の三角形は, ⊗の三角形の辺の長さをすべて $\frac{3}{2}$ 倍にしたものです。また, ⊕の三角形は, ⊗の三角形の辺の長さをすべて $\frac{1}{2}$ 倍にしたものです。

2 下の図のように, 点Bに対応する点をE, 点Cに対応する点をF, 点Dに対応する点をGとします。



方眼の数を $\frac{5}{3}$ 倍にします。

点Bは, 点Aから右に15動かしたところにあるので, 点Eは, 点Aから右に,  $15 \times \frac{5}{3} = 25$ 動かしたところにあります。

点Cは, 点Aから右に12, 上に3動かしたところにあるので, 点Fは, 点Aから,

$$\text{右に, } 12 \times \frac{5}{3} = 20$$

$$\text{上に, } 3 \times \frac{5}{3} = 5$$

動かしたところにあります。

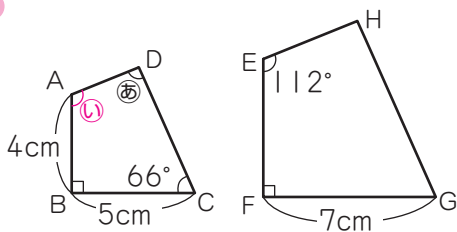
点Dは, 点Aから右に3, 上に6動かしたところにあるので, 点Gは, 点Aから,

$$\text{右に, } 3 \times \frac{5}{3} = 5$$

$$\text{上に, } 6 \times \frac{5}{3} = 10$$

動かしたところにあります。

3 ①



点Aと点Eが対応しているので, 上の図の角Ⓐの大きさは $112^\circ$ です。したがって, 角Ⓒの大きさは,

$$360^\circ - (112^\circ + 90^\circ + 66^\circ) = 92^\circ$$

② 辺FGの長さは, 辺BCの長さの,  $7 \div 5 = \frac{7}{5}$  (倍) なので, 辺EFの長さは,

$$4 \times \frac{7}{5} = \frac{28}{5} \text{ (cm)}$$

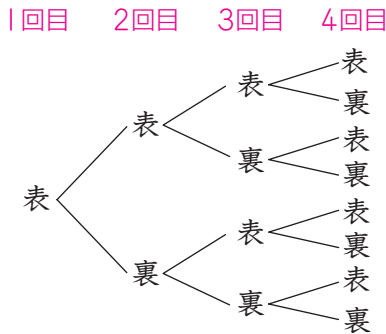
## 22 並べ方

### 答え

- 1 16通り  
 2 ① 24通り ② 4通り  
 3 ① 6通り ② 6通り

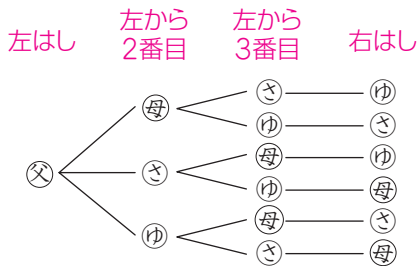
### 考え方

- 1 | 1回目に表が出たときを<sup>じゅけいず</sup>樹形図にかくと、下の図のように8通りになります。



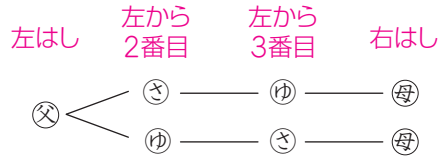
1回目に裏が出たときも同じように8通りになるので、全部で、  
 $8 + 8 = 16$  (通り)

- 2 ① 左はしをお父さんとしたときの並び方を樹形図にかくと、下の図のように6通りになります。



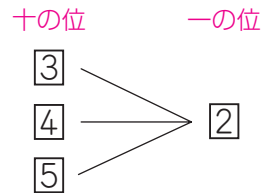
左はしをお母さん、さやかさん、ゆうたさんとしたときも同じように6通りなので、全部で、  
 $6 \times 4 = 24$  (通り)

- 2 左はしをお父さん、右はしをお母さんとしたときの並び方を樹形図にかくと、下の図のように2通りになります。



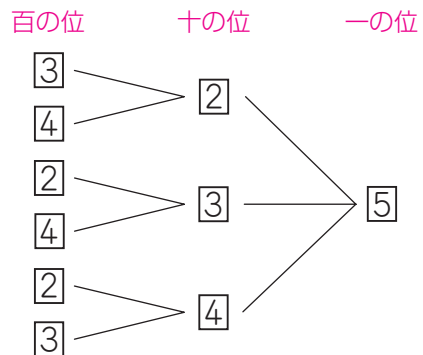
左はしをお母さん、右はしをお父さんとしたときも同じように2通りなので、全部で、 $2 + 2 = 4$  (通り)

- 3 ① 一の位が偶数であれば、その整数は偶数になります。一の位を2としたときの2けたの整数を樹形図にかくと、下の図のように3通りになります。



一の位を4としたときも同じように3通りなので、全部で、  
 $3 + 3 = 6$  (通り)

- 2 一の位が「0」または「5」であれば、その整数は5の倍数になります。一の位を5としたときの3けたの整数を樹形図にかくと、下の図のように6通りになります。



## 4 | 面積の比①

### 答え

1 ① ① 2 : 3    ② 7 : 3    2 a : b

2 7cm<sup>2</sup>

3 ① 40cm<sup>2</sup>    ② 98cm<sup>2</sup>

### 考え方

1 ① ① 三角形 ABD の面積は、  
 $2 \times 4 \div 2 = 4$  (cm<sup>2</sup>)  
 三角形 ACD の面積は、  
 $3 \times 4 \div 2 = 6$  (cm<sup>2</sup>)  
 したがって、面積の比を最も簡単な整数の比で表すと、 $4 : 6 = 2 : 3$

② 三角形 ABD の面積は、  
 $8 \times 7 \div 2 = 28$  (cm<sup>2</sup>)  
 三角形 ACD の面積は、  
 $8 \times 3 \div 2 = 12$  (cm<sup>2</sup>)  
 したがって、面積の比を最も簡単な整数の比で表すと、 $28 : 12 = 7 : 3$

2 ① ① で求めた面積の比をヒントにして考えます。

2 AE : ED  
 = 2 : 1

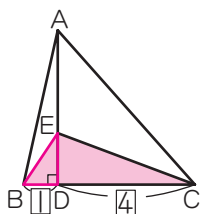
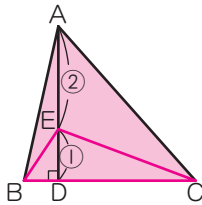
だから、三角形 ABC の面積と三角形 BCE の面積の比を求めると、 $(2 + 1) : 1 = 3 : 1$  です。したがって、三角形 BCE の面積は、

$$105 \times \frac{1}{3} = 35 \text{ (cm}^2\text{)}$$

また、

BD : DC  
 = 1 : 4

だから、三角形 BDE と三角形 BCE の面積の比は、 $1 : (1 + 4) = 1 : 5$  です。した



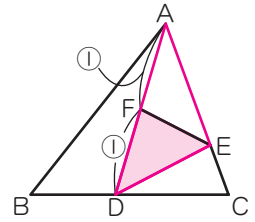
がって、三角形 BDE の面積は、

$$35 \times \frac{1}{5} = 7 \text{ (cm}^2\text{)}$$

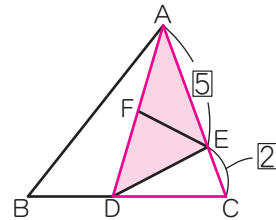
3 ① AF : FD  
 = 1 : 1

だから、三角形 DEF と三角形 ADE の面積の比は、  
 $1 : (1 + 1) = 1 : 2$  です。したがって、三角形 ADE の面積は、

$$20 \times \frac{2}{1} = 40 \text{ (cm}^2\text{)}$$



2



$CE : EA = 2 : 5$  だから、三角形 ADE と三角形 ADC の面積の比は、  
 $5 : (2 + 5) = 5 : 7$  です。したがって、三角形 ADC の面積は、

$$40 \times \frac{7}{5} = 56 \text{ (cm}^2\text{)}$$

また、

BD : DC  
 = 3 : 4

だから、三角形 ADC と三角形 ABC の面積の比は、 $4 : (3 + 4) = 4 : 7$  です。したがって、三角形 ABC の面積は、

$$56 \times \frac{7}{4} = 98 \text{ (cm}^2\text{)}$$

